

# 与論島活性化について

教育学部英語科 0715600081 土井 康輔

自分は今回の島の仕組みでの与論島実習で、できるだけ多くのことを体験し、できるだけ多くのことを見ることができるよう努めて過ごした。その中で自分が考えた与論島活性化の方法は、一年を通して、観光業のサポートをすることだ。入島初日に自分は大金久海岸へ行き、泳いだりその他の自然を見て回った。そこには、エメラルドグリーン  
の海岸が約2キロメートル続く白浜があった。それを見た瞬間、自分は感動しとても興奮したのを覚えている。水もそこまで冷たくはなく、普通に入れるほどだった。水深はとても浅く結構遠くまで泳いでも、深くなることはなかった。そんな海なのに誰一人として人がいないのである。あえて冬に来る必要はないのだが、そこを狙った観光業のサポートをすることで、与論島は活性化すると思う。

まずは、インターネットで与論島をPRすることが大切であると考え。自分が今回の実習で与論島に行くことが決まり、与論島はどのようなところなのかを調べようと思ったところ、与論島に関するページはとても少なく、しかもページの内容はほとんどかぶっていた。どこで何ができるかなどがとてもわかりずらかった。そんな場所のピークでない時期に人が来ないのは当たり前だと思う。

次に秋冬時期のマリンレジャーに対しての行政からの補助等が必要だと思った。あえて冬に来たくなるような特典をつけてあげればよいというのが自分の意見である。よくよく調べてみると与論島内のどこかのダイビングショップのブログがあり先日も数人の観光客が来たらしくそれについての記事が書いてあった。やはり、8.9月頃の活気はなかった。確かに、ダイビングをやったことない人に冬に新しくダイビングを始めてみないかという気にはなれないが、何度かダイビングしたことがある人はどうだろうか。夏よりも安い値段でダイビングができると知ったら全国から集まってくるのは間違えないのではないと思う。また、ライセンス取得に際しての費用は約5万円程度でこれにも補助が

出せると、新しい顧客を得ることができるのではないかと思う。そして与論島に何度もダイビングに来ていただいてリピーターとして島を活性化し、各地に広がったリピーターたちが、その地その地で与論島を紹介、または SNS 等で写真をアップロードし、宣伝することで、また新しい旅行客が訪れるこの繰り返しが与論島を再活性するための手立ての 1 つではないかと考える。船頭の方が言っていたとうり、与論島の海が 1 番綺麗なのは、2 月である。実際、自分たちは、そのようなことは知らなかった。

今や、地方自治体が SNS をつかって地元をアピールし盛り上げて行くことは当たり前となりつつある。何もないところではなく、与論島は、日本では数少ない綺麗な海である。アピールできる場所は非常に多い。海外志向の昨今、与論島の再活性により、国内旅行者が増えれば与論島だけでなく日本も活性化させてゆくのではないだろうか。今の与論島のキーワードは「夏」ではなく「冬」にあるのではないだろうか。今までやったことのないことに挑戦し、再び与論島活性化さ盛り上がり元気になることを願う。